

# R NISSAY IT Report



## ● MEDI-SINUS導入効果

◇寺尾地域医療連携室長にお話しをお聞きしました。

『MEDI-SINUSでは、最優先で確認すべき転棟・退院患者を絞り込んでくれるので、大変効率的に確認することができます。また、DPC入院期間に関して、病床マップ画面を使うと、病院全体におけるDPC入院期間Ⅱ超えの患者に対して色が付くので大変分かりやすいです。

その他、地域包括ケア病床に移ったと仮定した場合の点数差も、自動計算して色分けをして表示されるので、分かりやすい指標として役立っています。

毎日の運用とは別に、月1回、退院調整のミーティングを実施しています。資料作成は、今まで医事課にお願いしていましたが、MEDI-SINUSを使えば容易に作成できるので、今後は地域医療連携室が担当する予定です。

MEDI-SINUSを1年間活用した結果、以下のような効果がありました』



寺尾地域医療連携室長

効果

- ① 入院診療単価 **5000円UP** (対前年同月比 2019年4月現在)
- ② 重症度、医療・看護必要度 **2ポイントUP** (対前年同月比 2019年4月現在)
- ③ 病棟看護師の作業負荷 **1.5時間/日 軽減**

## ● さらなる運用の効率化に向けた取り組み

◇白神事務長にお話しをお聞きしました。

『今回のMEDI-SINUS導入をきっかけに、将来を見据えた、より合理的なベッドコントロールを目指すことを目標に掲げました。そのために、まず患者サポート部会で医師やメディカルスタッフを集めて勉強会を8回開催し、ベッドコントロールの重要性を説明しました。さらには患者サポート部会の下部ワーキングでMEDI-SINUSの運用案についても、繰り返し検討を行いました。

そして、部会用資料を作成の上、看護師やリハビリ担当にも4日間に渡って説明会を開催しました。体制に関しても、以前は2名でベッドコントロールを担当していましたが、病床管理担当マネージャー、リハビリのセラピストも専従配置し、ベッドコントロール担当者と連携する体制を構築することで、マネジメントの強化を図りました。

現状、ずっと培ってきた病床の使い方を改善している段階なので、現場では苦労もありますが、病院一丸となって取り組んでいます。』



白神事務長

## 最後に

おかげさまでMEDI-SINUSは順調に導入件数を増やしています。医療機関は今後、超高齢化社会の到来、地域医療構想、医療制度の変化に対応していくために変革を迫られます。MEDI-SINUSを広く提供していくことによってベッドコントロール業務の効率化を支援し、医療業界に貢献し続けていきたいと思っております。

(お問い合わせ) ヘルスケアコンサルティング営業部 email:dpc@nissay-it.co.jp まで



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア TEL: (03) 5714-4624 FAX: (03) 5713-0178

<https://www.nissay-it.co.jp>

※本文中に掲載されている商品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

All Rights reserved, Copyright ©2020 Nissay Information Technology Co., Ltd.

(本誌記事の無断転載・コピーを禁じます)

2020.03 NIT2019-138 (経016) 03



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

## はじめに

当社のヘルスケア領域では医療機関向けにさまざまなソリューションを開発し、現在 1500 を超える医療機関にご活用いただいております。その中で当社が最も注力している新規ソリューションである病床管理業務支援システム「MEDI-SINUS」は、病院経営・働き方改革に資するシステムとして大変好評をいただいております。

医療機関を取り巻く環境の変化により、患者の病態に応じて入院させる病室によって医療機関の収入（入院基本料）変わるために、より適正なベッドコントロールが求められるようになってきています。

そこで、実際に MEDI-SINUS を導入いただいた医療機関での活用状況、導入効果をご紹介します。

## 医療機関を取り巻く環境とベッドコントロールの必要性




### ●2025年の超高齢化社会に向けて、医療・介護の需要が増大

今後、高齢者の罹患が多い慢性疾患が増えるため、今のような急性期中心の医療提供体制では回復期病床が不足すると予想されています。そのため医療機関は急性期病床から回復期病床（地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床）への転換など、病床配置の見直しが行われています。

これまでは病棟の師長が各病棟単位でベッドコントロールや退院調整を行ってきましたが、現在は地域連携室等にその機能を集約させる医療機関が増えてきました。「入院収入単価の適正化」や「入院基本料の施設基準維持」に向けた高度な対応に取り組まざるを得なくなってきました。

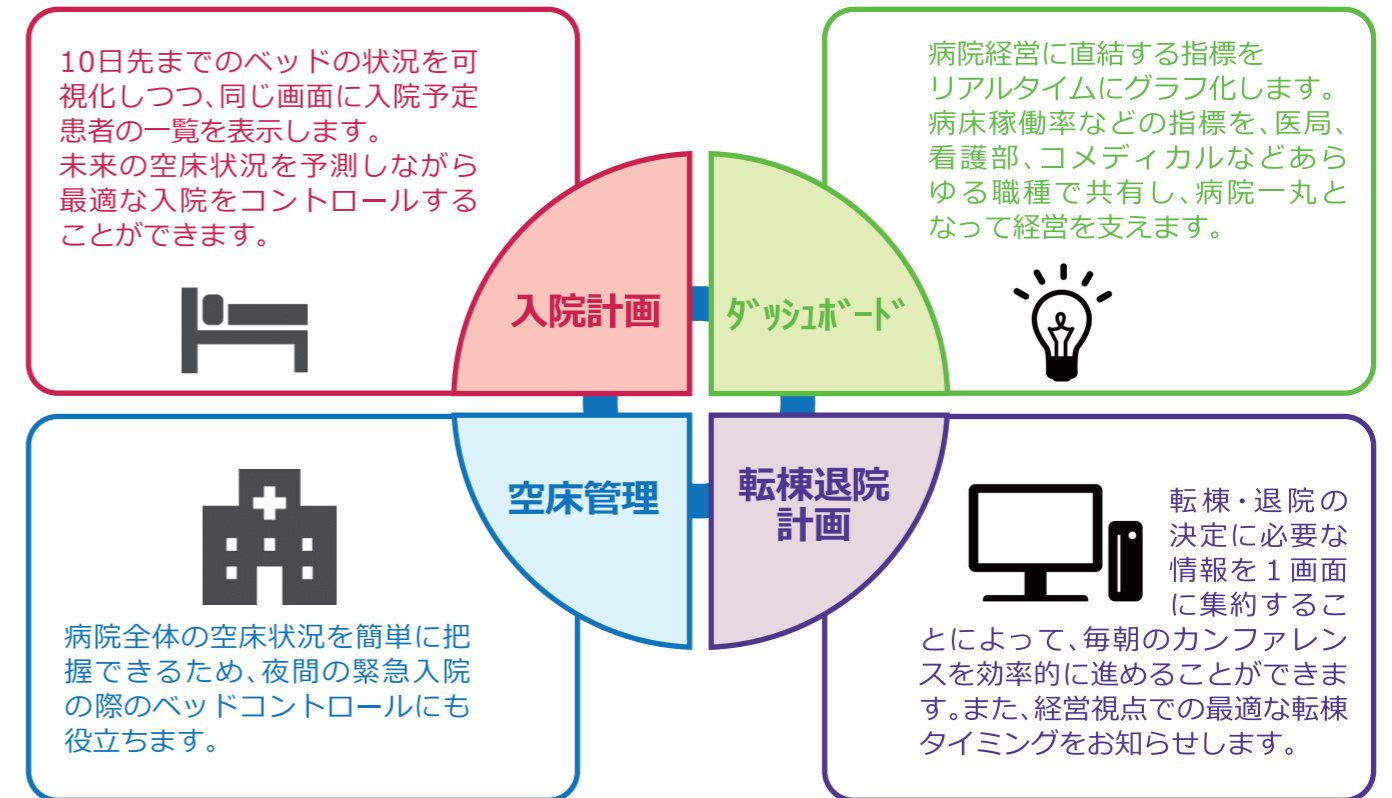
- 2025年には3人に1人が65歳以上、かつ5人に1人が75歳以上
- ▶ 高齢化により医療や介護を必要とする人が増加
  - ▶ 特に75歳以上人口の伸びが大きく、慢性疾患や複数疾病を抱える人が増加

### ●患者移動で病院が考慮すべきポイント

		病院・患者の両方の考慮が必要		
病院都合	<b>a. 入院収入単価</b> 適正な収入を確保できるようにタイミングをコントロール ・転棟のタイミング ・DPC点数 / 入院期間 ・転棟先の点数 ・入退院数 ・平均在院日数	<b>b. 施設基準の維持</b> 現在の入院基本料の基準を維持 ・平均在院日数 ・重症者割合 ・リハビリ平均単位 ・在宅復帰率	<b>d. 移動先調整</b> 移動先を本人・家族の状況を含めて調整 ・入院先 / 転棟先のベッド調整 ・退院先の調整 ・病棟の負担度 ・看護師の配置 ・患者本人希望 ・家族希望	<b>e. 関係者との合意</b> 最適な判断ができているかを確認 ・医事課 ・メディカルソーシャルワーカー ・リハビリテーション ・病棟師長 ・医師
	<b>c. 診療面</b> 患者の容態・診療予定の医師・看護師の判断 ・検査予定/検査結果 ・手術予定/手術内容 ・リハビリ予定 ・ADL(日常生活動作) ・感染症 他			

## MEDI-SINUS概要

MEDI-SINUSは <sup>もっと</sup>早く <sup>もっと</sup>正しく <sup>もっと</sup>簡単に ベッドコントロール業務を行えるよう支援するためのシステムです。



## 岡山済生会総合病院様での導入事例

### ●MEDI-SINUS導入のきっかけ



岡山済生会総合病院

所在地:岡山市北区国体町2番25号  
病床数:473床(一般 435床、小児13床、緩和ケア 25床)  
診療科:内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、他36診療科

社会福祉法人恩賜財団済生会 岡山済生会総合病院様では、付属の外来センターを病院の外来部門として一体運営をされていました。しかし、経営面と地域ニーズを鑑み、2018年9月に同センターを地域包括ケア病床に特化した、岡山済生会外来センター病院(80床)としてリニューアルされました。

入院期間をコントロールした上での地域包括ケア病床の活用と看護必要度維持のために病床管理のマネジメントツールを探しておられたところ、MEDI-SINUSがその目的に合致すると評価され導入を決めていただきました。

- 課題
- ① 病床稼働率向上と入院診療単価UP
  - ② 地域包括ケア病棟活用と看護必要度の維持
  - ③ 病棟看護師の作業負荷